

水害に備え水防体制を強化

旧北上川右岸堤防で市水防演習

水防関係機関の技術向上、体制強化を目的に、市水防演習が7月8日、豊里町川前地内の旧北上川右岸堤防で実施されました。

演習は、合併後3地区合同の輪番制で行うこととなっており、今回は豊里、米山、南方地区が担当。各支団から団員約110人が参加しました。布施市長は「市内には北上川や旧北上川、迫川など、豊かな水辺空間がありますが、



米山支団員が力を合わせて土のうを積み上げました



シート張り工法を披露した南方支団員



豊里支団員による月の輪工法



長沼でいかにに筒菜を定植する北方小児童

筒菜の水耕栽培で水質改善

北方小で水辺環境保全活動

旧北上川が増水し、堤防の亀裂、洗掘、漏水などが生じたことを想定。各支団の団員による「シート張り工法」「釜段工法」や、消防本部による「かご止め工法」を実施しました。

また、川の水位と漏水口の水位差を縮め、水圧を弱めるために行われる「月の輪工法」を地元の豊里支団の団員が実施。本番さながらに真剣な様子で、演習に取り組んでいました。

身近な水辺「長沼」を体験学習の場とする、農業農村体験学習「水辺環境保全活動」（迫川沿岸土地改良区主催）が、5〜6月にかけて北方小で実施されました。

農業に欠かせない農業用水



育苗用のトンネルを作り種まきをしました

や、農業水利施設などへ理解と関心を持ってもらおうと、平成16年から実施。北方小の5年生45人が参加しました。

活動では、深刻な水質汚濁問題を抱える長沼の水質を浄化するため、生育していく過程で、水を濁らす原因の窒素やリンを吸収する筒菜を栽培。5月28日には北方小の校庭で育苗用のトンネル作りに挑戦し、種をまきました。

児童たちは、グループごとに生育を観察。6月25日には、長沼野菜いかだの会の協力で、長沼に「野菜いかだ」を設置して苗を定植しました。

今後は、水耕栽培した筒菜の生育を観察していく予定で、収穫時期の9月には調理実習を計画しています。

明るいまちを築くために

社会を明るくする運動 メッセージ伝達・啓発活動

社会を明るくする運動の法務大臣からのメッセージ伝達と、啓発活動が7月2日に行われました。



吉田会長から布施市長にメッセージが手渡されました

が協力して明るい社会を築こうとする全国的な運動です。市役所迫庁舎で行われたメッセージ伝達には、登米南三陸保護司会会長の吉田芳行（米山）さんら7人が出席。吉田会長がメッセージを朗読し、布施市長に手渡しました。



ヨークベニマル佐沼店で行われた啓発活動

市長は「非行や犯罪が起きないよう、多くの人たちに見守ってもらえる環境を築いてほしい」とあいさつしました。その後、ジャスコ南方店、ヨークベニマル佐沼店、みやぎ生協加賀野店では、9地区の保護司会や更生保護女性会の会員が参加し、啓発活動を実施。来店者へ啓発用のチラシやポケットティッシュを配り、犯罪や非行防止などを呼び掛けました。



市役所迫庁舎の議場を見学する訪問団



市へ友好の印として記念品が手渡されました

人と人との交流で文化体験

アメリカ・サウスレイク市から訪問団

訪問団を代表して、引率者のアレン・スミスさんが「佐沼夏祭りや消防団の訓練などを見学し、日本・登米文化を体験することができた。ホストファミリーの人たちも、とても優しく感謝しています」とお礼の言葉を述べました。

その後、代表者から友好の印として、テキサス・レンジャーズのメジャーリーグ、大塚晶則投手のサイン入りボールなどの記念品が市へ贈られました。



同世代のジュニア・リーダーとニュースポーツで交流

今回市を訪問した生徒たちは、「キャロルハイスクール」の15、16歳の男女。それぞれが12軒のホストファミリー（受け入れ先）の家で、ホームステイを体験し、家庭生活などを通じて日本文化を学びました。

そのほか、市内の史跡・名勝観光や、市ジュニア・リーダーとのニュースポーツ、レクダンス、野外炊飯の交流会などで、交流と親睦を深めた7日間となりました。